

## 中高等学校教育におけるコンピュータ利用 鍵となるソフトウェア

寛 捷彦 早稲田大学

中学・高校の教育についてのまったくの素人として、中学・高校の教育におけるコンピュータ利用について思いつくことを述べる。

### 1. 道具としてのコンピュータ

教材の提示用として、教具として、あるいはまた教育管理用としてなど、コンピュータをさまざまに道具として利用することが可能である。このとき、器材としてどれほどのコンピュータが用意できるか、どれほどのソフトウェアがそろえられるかが重要な点になる。教員の自主的な努力だけにたよるのでは、到底十分な結果はえられないであろう。とくに、優れたソフトウェアを揃えていくための方策を立てることが急務であると思う。

### 2. リテラシー

コンピュータのあふれたこの世界の中での“常識”を身につけさせることが一番大切である。たとえば、

- ・ソフトウェアの著作権の尊重
- ・パスワードなどの守秘、それにまして
- ・情報の価値の認識

などを、きちんとしつけることが是非必要である。

ワープロ、スプレッドシートなどを上手に使う方法なども体得させることができると思う。たとえば、ワープロについては、(技術)作文の道具として利用するなど、教科との関係が必要になるだろう。

### 3. プログラミング

プログラミングは、中途はんばに教育することを避ける。専門的なコース以外では、各種のソフトウェアを利用する過程で自然に経験するもので十分ではないだろうか。

いずれにしても、ソフトウェアをどうそろえていくかについて、早急に施策を立て、実行に移していくことが重要である。それには、教育の専門家、コンピュータの専門家を含めた協力体勢の確立が鍵となる。